

備前市事務事業評価シート

事業の概要		事業開始年度	昭和62年度	根拠法令・例規等	備前市飲料水供給施設設置条例
総合計画	大項目 基本目標	04	土台となる政策「安全・安心」	問 担当課(室)	水道課
	中項目 基本施策	05	安全に暮らせるまち		
	小項目 施策	14	安全でおいしい水の安定供給		
事務事業名		06	飲料水供給施設管理運営事業	合 職・氏名	工務係長・笠原 聖司
				電 話	0869-66-9793
				このシート作成に要した時間	2.0 時間

事業の目的		対象 (誰・何に対して)	飲料水供給施設(鴻島)の水道利用者	
目的 (何のために)				安全で安心な水道水を安定的に供給するため。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)				

事業の実績		事業の説明		優先度
目的を達成するために実施した事業	細事業名			
	飲料水供給施設管理運営事業	安全で安心な水道水を安定的に供給するために、施設の点検・修理などの維持管理を行う。		◎

決算額	事業費等		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績			
	事業費	千円		8,592	11,173	11,173			
	必要人員	人	件	0.31人	3,006	0.22人	2,134	0.19人	1,631
	事業費	千円		11,598	13,307	12,804			
	財源	国	円						
		県	円		7,309	7,197	7,063		
		市	円						
		その他()	円						
	一般財源	円		4,289	6,110	5,741			
	受益者負担比率	%		63.0%	54.1%	55.2%			
結果指標名	単位		平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績				
有収水量	説明	料金収入の対象となった水量							
結果指標	結果指標	量	m	9,594	8,536	9,584			
対前年	比	%		94.5%	89.0%	112.3%			
活動	コスト	円		11,598,000	13,307,000	12,804,198			
単位	当たり	コスト	円	1,209	1,559	1,336			

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果		(平成24年度事業)				
成果指標名	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	目標値
有収率	目標値(A)	55.0	59.0	59.0	55	
	実績値(B)	34.9	28.8	26.9	到達目標値	
	達成率(B/A)	63.45%	48.81%	45.59%	55	
成果指標設定の考え方・式や説明						
有収率とは有収水量を給水量で除したもので、供給した配水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合です。有収率が上がるということは、漏水などの無効水量が減り、水道水の供給が効率よく行われているということです。						

事務事業の評価		該当する項目を□から■へ < ■ ← 「コピー」して「貼り付け」してください >		Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	必要	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い
		市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input checked="" type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い
有効性の評価	目的達成度	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い
				D

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しない

進行年度(H25年度)の改革改善内容		状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
					○				
説明		漏水管路の修理等を都度行っているが、有収率が低下を止めるには至っていない。地元との連絡を密にして今後も修繕箇所の発見に努めていく。							

総合評価		総合評価	A B C D E 高や普や低 いや通やい 高 低 い	B
水道水は島民の生活には欠かすことの出来ないものである。引き続き水道水の安定給水図るために必要な事業である。				

平成26年度の方向性・取組目標		方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
					○				
取組目標		道路部分の管路について、公道と私道の区別を明らかにして、維持管理の負担に関する対応を行う。							

Action